総合

里山里海の幸 ひと椀に

和倉温泉 旅館で「わくらむすび」

和倉温泉（石川県七尾市）の旅館15軒は、能登の「里山里海」の幸をひと椀に盛り込んだ冬季限定の特別メニュー「わくらむすび」を提供している。旅館協同組合が呼びかけて始まった初めての企画。出汁で食べるおむすび茶漬けを旅館ごとの具材、味付けで味わってもらう。該当の宿泊プランによる提供。期間は2016年2月末まで。

11月15日に提供をスタート。冬季に旬を迎える食材が多い能登の味をPRし、各旅館で楽しんでもらう。旅館の宿泊プランの付加価値を高める狙いもある。

わくらむすびは、「お客さまとわくらの縁むすび」の願いを込めて考案された料理。石川県産の米、能登の食材、能登のいしる、酒粕、塩などを使うことを条件に、各旅館の料理人が工夫をこらしている。

多田屋は七尾湾のかき棚でとれたかきを使い、能登牛のジャーキーを寄せたひと椀。加賀屋はフグの真子の糠漬けを使用。大正浪漫の宿渡月庵、味な宿宝仙閣は、海藻と酒粕を組み合わせた。日本の宿のと楽は、こんかの鰯と中島菜を使う。

他の提供旅館は次の通り。

天空の宿大観荘▽虹と海▽旅亭はまなす▽花ごよみ▽ゆけむりの宿美湾荘▽あえの風▽ホテル海望▽お宿すず花▽はまづる▽宿守屋寿苑

「わくらむすび」のメニュー例

旅館国際女将会が設立20周年を祝う

記念式典を開催

日本旅館国際女将会（長坂正惠会長＝下呂観光ホテルしょうげつ）は12月17日、設立20周年記念式典を東京都港区の明治記念館で開いた。女将ら40人が出席した。

同会の設立者で事務局長を務める日本ホテル教育センターの石塚勉理事長が、20年間の歩みをまとめた資料と画像をパワーポイントで紹介。

〜〜〜会員の女将らが記念撮影

「1995年のパリを皮切りに、毎年世界各国を訪れ、これまでに17カ国60都市で日本旅館と温泉文化をPRしてきた。現地の新聞・雑誌150点に取り上げられ、取材を受けた現地テレビ局は生放送番組への出演も含め45局に上る」などと話し、これまでの成果を強調した。

2006年6月には首相官邸に小泉純一郎首相を訪問。観光庁設立などを求める要望書を手渡した。同要望書は、二階俊博経済産業相（役職は当時）、北側一雄国土交通相（同）、柴田耕介国交省総合観光政策審議官（同）にも提出。その後、08年10月に観光庁が発足した。

五輪担当相を旅館女将が訪問

日本旅館国際女将会のメンバーは12月17日、設立20周年記念式典の開催に合わせて、遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック担当相を表敬訪問した＝写真。

メンバーたちは「2020年の東京五輪では、日本旅館の素晴らしさを味わっていただけるよう、『おもてなし』をしたい」と話した。また「民泊に頼らなくても、地方の旅館を含めれば宿泊客受け入れの余地は十分にある」などと訴えた。

体験型観光の現場〈463〉

安心、安全な国に

2015年を象徴する漢字は「安」であった。約2千万人に迫る訪日外国人の増加は、1回の旅行期間が5泊程度になっていることからも、1億泊の宿泊施設が必要とされている。都市のホテルやゴールデンルートの宿泊施設が取りにくくなっているほどである。マナーやモラルの課題はあるものの、全国至る所で恩恵を受けている。

外国人の日本の印象は、町が美しい、人が親切で優しい、治安が良い、食べ物が衛生的でおいしい、日本製品のクオリティが高いなど、極めて評判が良いのは当然である。その上、多言語表記や外国語での接客対応、免税、ハラル対応など至れり尽くせりである。私が外国に行ってもそこまではやってくれない。

そんな良い国の日本が外国人のマナーの悪さやモラルの低さに目をつむることなく、日本の常識や日本のマナーをしっかり伝えることが次のもてなしとなる。もちろん「人の振り見て我が振り直せ」と言うが如く、マナーの悪い日本人は存在してはならない。そんな中、各地で知恵を絞って外国人の誘客拡大に向けて取り組みが進んでいる。

第3回「観光地ひろしま！おもてなしアワード」の受賞者ら

過日は、広島県の第3回「観光地ひろしま！おもてなしアワード」の最終審査会に伺った。1次審査を通過した10団体から取り組みに関する発表があり、最終審査に望んだ。会場の参加者も審査員として1票を投じる公開審査となり、多くの人がもてなしの優良事例を学ぶ機会となった。

結果は広島県のホームページにて発表している。その一つに、田舎と食と交流で過疎高齢化の地域を元気にしている「田舎cafeおそらゆき」があった。無農薬、有機栽培、自家製、田舎料理、地産地消、原風景、古民家、英語など、まさに今から未来に向かって、重要なキーワードが並んでいる。相手が望むサービスばかりではなく、時代や地域や我が国にとって、守り伝えなければならないものは何かを考えてほしい。

こうした事業は、各組織がおもてなしとは何をすれば良いのかと、みんなで考え、議論し、行動に起こす機会を与えてくれる。そのことこそが重要である。

訪日外国人の増加の波に乗った「外国人誘客コンクール」ではなく、日本人の初回訪問客やリピーターを増やす取り組みこそが重要である。

また、ボランティア精神は尊いが、サービスは無料または格安で採算度外視では長続きしないし、経済での地域活性化には結びつかない。

新しい年を迎えて、安心安全で、安らかな生活ができる国になってほしいと願うばかりである。

（体験教育企画社長・藤澤安良）

中国観光の魅力関係者らに紹介

大阪で

中国国家観光局大阪駐在事務所は12月17日、大阪市のリーガロイヤルホテルで「麗しい中国2016シルクロード観光年の夕べ」を開いた＝写真。「シルクロード観光年」としてPRしている中国観光の魅力などを日本の観光関係者らに紹介した。

同大阪駐在事務所の羅玉泉所長は「2015年は『シルクロード観光年』をキャッチフレーズにPRしてきた。2016年も引き続きシルクロードをテーマにPRすると決定した。今年に入り観光局は新しい企画を打ち出した。『新しい中国』のQRコードも作り、スマートフォンですぐに中国の最新情報が見られるようになる。引き続き皆さまの協力を期待したい」と話した。

来賓では、国土交通省近畿運輸局の阪部光雄観光部長が「訪日外国人は目標である2千万人に迫る勢い。中国からの訪日旅行者は14年は約241万人だったが、15年1〜11月は約464万人と前年を大きく上回っており、感謝している。近畿運輸局としても受け入れの環境整備をしていきたい。日本と中国の友好がさらに深まりますように」とあいさつした。

竹内美樹の口福（こうふく）のおすそわけ 115

長老喜（ちょろぎ）

新年2週号ということで、お正月にちなんだお話。おせちには縁起物とされる食材やお料理が入っているが、その一つを取り上げてみたい。黒豆の上にちょこんとのっていることが多い、アイツである。

良く言えば巻貝、悪く言えば芋虫のような形で、白い物と赤く染められたものがある。その名は「ちょろぎ」。「長老喜」「丁呂木」とも書かれ、長寿を願うれっきとした縁起物だ。語源には諸説あるが、原産地・中国の表記「朝露葱」が日本語読みされたものとする説が有力だという。シソ科の植物で、根についた塊茎（かいけい）が食用となる。従来は脇役の食材だったが、さまざまな大学や研究機関から、脳細胞を活性化し、脳梗塞や認知症の予防に効果があると発表され、にわかに注目を浴びるようになった。

もともと、ちょろぎは薬用植物で、滋養強壮効果や整腸作用があるとされ、古くはすり潰したものを打撲部分に塗るなどして使われてきたという。また、漢方では冬虫夏草の代用品とされ、その薬効から長寿の薬と言われていたようだ。

筆者自身、おせちにちょろぎが入っていても、特に気に留めたことはなかったが、考えが変わったのは、秋田県鹿角市のヤマヨフーズの児玉照市社長、児玉良三専務のお話をうかがってからだ。最近各地でちょろぎを特産品にしようという動きがあるが、同社では、国産の何と5割近くを出荷していると言うのだ。

同社の主要取扱品目は、山菜やキノコ類。だが、天然物を採るプロの人々の高齢化が進み、厳しい林道を通って山奥まで行くのが難しくなっている様子に、児玉社長は一念発起したそうだ。彼らに安定収入をと考えて取り組んだのが、このちょろぎ作りだ。

ちょろぎは、収穫の機械化ができないため、すべて手作業となる。オマケに、塊茎のくびれについた泥を洗い落とすのもひと苦労。また、収穫期が11月以降と寒い時期に当たるのも、今まで大規模栽培が少ない作物だった理由だろう。霜が降りる度にひと回りずつ大きくなるそうで、「霜が3回あたらないと、収穫できない」と児玉社長は言う。

味付けもまた試行錯誤の連続で、現在のものにたどり着くまでにおおよそ8トンも捨てなければならなかったという。ようやく3年くらい前から商売として成り立つようになったのだそうだ。ちょろぎは単なる飾り物ではなく、とても有難い食べ物なのだ。

実はこのちょろぎ、19世紀のフランスでは、消化を助けることから、離乳食や病人食としての利用が推奨されていたという。今もcrosneとも呼ばれ、茹でてバターで和えて肉料理の付け合わせにしたり、スープ煮やマリネなどにされているという。ちょろぎを添えた料理は「ア・ラ・ジャポネーズ」（日本風）と呼ばれているというから面白い。

初夏に薄紫色の花を咲かせるちょろぎ。その花言葉は「楽しい人生」だそうだ。読者の皆様にとって、2016年が楽しい年になりますように！

※宿泊料飲施設ジャーナリスト。数多くの取材経験を生かし、旅館・ホテル、レストランのプロデュースやメニュー開発、ホスピタリティ研修なども手掛ける。

WEBマーケティング　インターネット徹底集客 第138回

HPの最新トレンド（予約導線を見直そう）

シリーズで時流に基づいたホームページ（HP）のコンテンツの見直しについて述べているが、今号は「予約導線」についてである。ホテル・旅館のHPのゴールは予約を獲得することであるから、予約導線の設計が非常に大事であることは言うまでもない。

まず、一口に予約導線といっても、お客さまが予約に至る経緯はさまざまである。代表的なところだけでも「プラン一覧から検索」「宿泊日を指定して検索」「部屋タイプから検索」などがある。最低でも上記の予約導線をしっかりと設置・設定する必要がある。

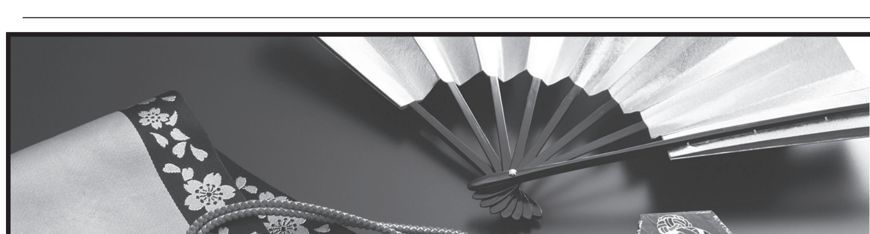
この中で、いわゆる「プラン一覧から検索」という導線は多くの施設できちんとできていることが多い。しかしながら、「宿泊日を指定して検索」するお客さまに対して、いわゆる「空室検索フォーム」の設置ができていない施設は、まだ全国的に見受けられるので、ぜひ今一度、自施設のHPを見直してほしい。仮に「空室検索フォーム」がないと、お客さまはプランを一つずつ確認しては、自分が泊まりたい日にそのプランが販売されているかを確認しなければならない。これは相当な操作ストレスである。

「宿泊日を指定して検索」の導線には、空室検索フォームの他にも「カレンダーから探す」という導線で、向こう3カ月程度の空室状況が閲覧できるコンテンツを制作する施設もある。これは繁忙期などに、どの日のどの部屋が空いているのか、お客さまにとっては一目瞭然なので親切な設計である。

続いて大事なのが、HP上の設置場所であるが、これは当然ながらファーストビュー（HPを開いた時に、一画面でスクロールなしに見られる範囲）での設置が望ましい。デザイン上の問題もあり、ファーストビューで難しい場合でも、お客さまのすぐ目に留まる位置に設計することは心がけたい。お客さまが予約フォームを探すようではいけない。

次号では、より細かく予約導線の設計について述べていきたいが、まずは、自施設の予約導線の点検をお客さま目線で今一度行ってほしい。

（株式会社アビリティコンサルタント・株式会社プライムコンセプト　内藤英賢）＝隔週掲載



謹賀新年
平成28年 賀正

冨士商事株式会社
ハトヤホテル
サンハトヤ
代表取締役社長 原口茂
〒414-0002 静岡県伊東市湯川五七二－十二 ホテルサンハトヤ
TEL〇五五七－三六－四二二六
FAX〇五五七－三六－六二四八

INATORISO
いなとり荘
季一遊（ときいちゅう） Réso-Lente
海鮮宿 PESCADO ペスカードいなとり
代表取締役 村木千之助
TEL 0557-95-1234

伊豆 天城
湯宿 嵯峨沢館
YUYADO SAGASAWAKAN
代表取締役 植田正年
〒410-3209 静岡県伊豆市門野原400-1
TEL.(0558)85-0115
http://www.sagasawakan.com
［姉妹館］谷川の湯 あせび野

山中温泉 花紫
TEL 0761-78-0077
FAX 0761-78-5580
www.hana-mura.com

能登輪島温泉
ホテル高州園
代表取締役 前田義則
〒928-8588 石川県輪島市塚田町2－31－6
TEL 0768・22・8888
FAX 0768・22・7010

北陸・加賀山代温泉
葉渡莉（はとり）
瑠璃光（るりこう）
代表取締役社長 萬谷浩幸
石川県加賀市山代温泉
瑠璃光 TEL（〇七六一）七七－一三三三
葉渡莉 TEL（〇七六一）七七－八二〇〇

金太郎温泉
代表取締役社長 木下荘司
富山県魚津市天神野新6000番地
電話(0765)－24－1220

別府八湯 鉄輪温泉
おにやま ホテル
社長 上月敬一郎
大分県別府市鉄輪335の1
電話0977－66－1121

雲仙 九州ホテル
代表取締役社長 七條彰宣
AKINOBU SHICHIJO
〒854-0697
長崎県雲仙市小浜町雲仙320
TEL.0957-73-3234
www.kyushuhtl.co.jp

下電ホテル
SHIMODEN HOTEL
ゆのごう美春閣（びしゅんかく）
代表取締役社長 永山久徳
鷲羽山下電ホテル［株式会社下電ホテル］
〒711-0924 岡山県倉敷市大浜海岸
TEL086－479－7111 FAX086－479－7117
ゆのごう美春閣［株式会社ホテルリゾート下電］
〒707-0061 岡山県美作市中山奥湯郷
TEL0868－72－8111 FAX0868－72－0117

四季育む宿
然林房
代表取締役 馬渕眞理子
〒603-8468
京都市北区鷹峯北鷹峯町40番地
TEL:075-491-2231 FAX: 075-491-7712

長良川温泉
ホテルパーク
代表取締役社長 山岡利安
〒500－8009
岐阜市湊町三九七－二（長良川岬）
電話岐阜（〇五八）二六五－五二一一（代）

飛騨高山
本陣平野屋
別館 花兆庵
代表取締役社長 有巣秀司
〒506-0011
岐阜県高山市本町一
TEL〇五七七（三四）一二三四（代）
FAX〇五七七（三四）七七二二
http://www.honjinhiranoya.com

謹んで新年のお慶びを申し上げます
飲泉・自家源泉かけ流しの宿 観音温泉
〒413-0712 静岡県下田市横川1092-1 TEL 0558-28-1234